

3班による学習成果発表

グループメンバー

豊科北中学校 小林 瑞季

穂高東中学校 塚山 聖

三郷中学校 松村 叶和

明科中学校 鳥羽 可苗

松本大学 平和創造研究会 長谷川 早紀

グループの学習テーマ

『アメリカ側から見た原爆投下』

- ・ **グループで設定した学習の着眼点**

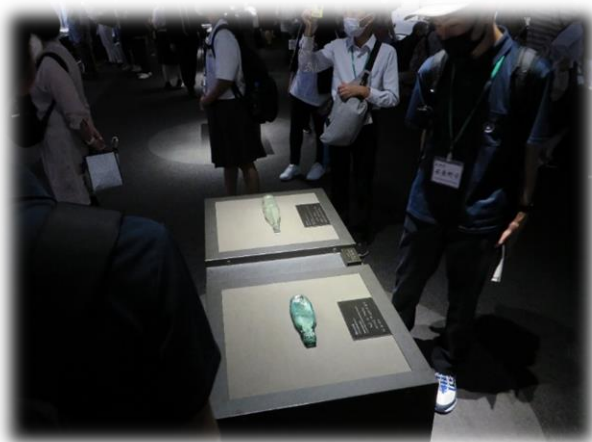
- ① **なぜ広島に原爆が落とされたのか**
- ② **なぜ日本だけ原爆が落とされたのか**
- ③ **アメリカから日本への思い**

見学した施設



- 平和記念資料館
- 被爆体験記朗読会
- ひろしま子ども平和の集い
- 原爆の絵画展
- 原爆ドーム

見学の様子



学習の着眼点

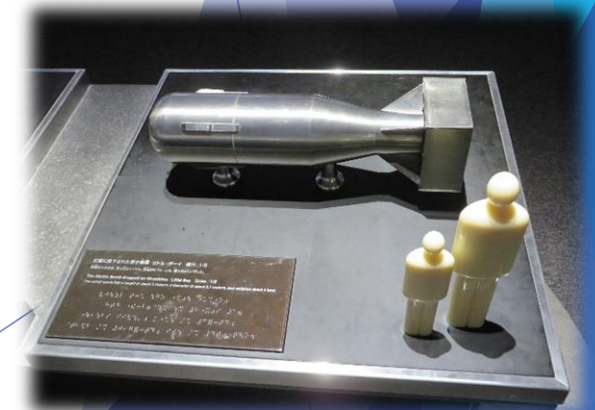
① 『なぜ広島に原爆が落とされたのか』



- ▶ 広島は原爆はウラン235、長崎にはプルトニウム239が使用されアメリカはこの2種類の実験をしたかった。
- ▶ 広島は当時の人口が多かった。（広島は東京・大阪と違い大きな空襲を受けていなかったから）
- ▶ 爆風で効果的に損害を与えられる地形だったから。
- ▶ 広島には軍事施設が集中していたため。

② 『なぜ日本だけ原爆が落とされたのか』

- ▶ アメリカは原爆の力を見せつけるために落とした。
- ▶ 他の国は早めに降伏したが、日本との戦争は長期化していたため、早く戦争を終わらせたかったアメリカは原爆を落とした。
- ▶ ソ連より先にアメリカが占領したかったから。



③ 『アメリカから日本への思い』



(子供たちと触れ合うノーマン・カズンズ氏)

- ▶ 原爆が落とされた後、世界中で原爆使用禁止を求める抗議文が出され、アメリカが最も多かった。
 - ▶ アメリカから日本へ医薬品の支援が多くあった。
 - ▶ 原爆により孤児となった子供たちを支援する運動が提唱された。
- アメリカの評論家「ノーマン・カズンズ」が精神養子運動を広めた。

広島での学習の成果

- ・ 78年経過した今でも後遺症で苦しんでいる人が多くいることが分かった。
- ・ 普通の旅行では体験できないことが多くあった。被爆体験者の方から、よりリアルな惨状を聞くことができた。
- ・ 友達と参加したことによって意見共有ができ、考えがより深まった。
- ・ 広島に原爆を投下した理由を学ぶことができた。





『これからの私たちにできること』

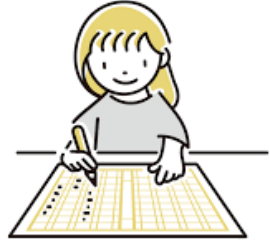
これからの平和をどのように
創っていくのか



具体的に

- ▶ 文化祭や学校で、戦後、アメリカも日本に支援をしていたことを伝える。
- ▶ 平和を願うために鶴を折る。
- ▶ 原爆資料館へ見学に行くことや平和祈念式典の映像を見るなど、平和について興味を持ってもらう。
- ▶ 学校の授業内や友達同士で、平和について語る時間をつくる。
- ▶ 原爆として平和を捉えるのではなく日常的な平和を大切にしていく。

感想



- たった一発の原爆から苦しんだ人がたくさんいるので、戦争を体験していないからこそ、今私たちができることを考えて未来へつなげていく。（小林）
- 原爆が生み出すものは悲しみしかなく、これからの未来に再びこのようなことが起こらないように悲惨さを伝えていきたい。（松村）
- 原爆によって、怪我や精神的にもつらい思いをした人がたくさんいて、平和は大切だということを身近な人や周りの人に伝えていくことが大切だと思った。（鳥羽）
- 広島で起きたことを生々しくいろいろな人に伝えていくことが、実際に平和を考えてもらう上で一番重要だと思った。（塚山）
- 平和の学習で学んだ事、感じた事を発信し、戦争の悲惨さ、平和の尊さを多くの人に共有していきたい。（長谷川）

ご清聴ありがとうございました